

# 概要版

# スマート林業定着促進プラン

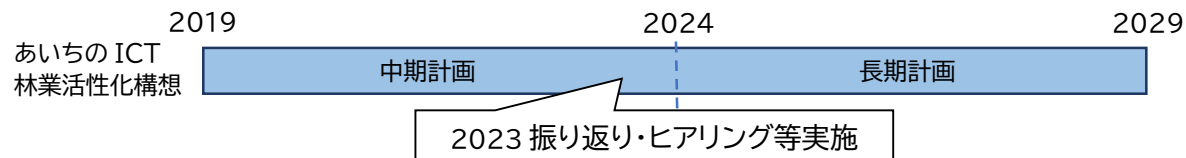
～林業経営体の業務合理化を目指して～

## スマート林業定着促進プラン策定の背景

愛知県では、「あいちの ICT 林業活性化構想」を 2019 年に策定し、本県が目指す 10 年間を目途とするスマート林業推進のため分野ごとの取組内容を定めました。この中間年を 2024 年に迎えるにあたり、林業経営体や市町村等にヒアリング等を実施しこれまでの取組の振り返りを行いました。

### あいちの ICT 林業活性化構想 (2019～)

- ・ 森林情報整備 (森林クラウド整備、航空レーザ計測・解析など)
- ・ 木材生産流通体制 (木材需給情報システム構築、ICT 林業機械導入など)
- ・ 間伐事業地の選定 (UAV 航空写真の活用など)
- ・ 林内路網の設計・整備 (設計支援ソフトの導入・整備など)
- ・ 治山事業における防災対策 (航空レーザ、UAV の活用など)



### <振り返りと判明した課題>

森林クラウドシステムなど県がスマート林業の基盤として整備を進めているシステム開発やスマート林業ツールを普及するための実証等については予定どおり進んでいます。一方、林業経営体にスマート林業が十分定着しておらず、スマート林業が組織経営の課題解決につながるという認識が低いことがわかりました。

- ・ スマート林業化の目的が明確になっていない
- ・ スマート林業ツールの普及方法がデモに留まり、効果が十分に伝わっていない

### 林業経営体へのスマート林業定着は不可欠

林業経営体の多くは零細で厳しい財務状況にあり、一度に多くの担い手を増やすことは困難です。このため、現場作業・事務問わず効率を上げて事業量を拡大していくためには、スマート林業ツールの普及と定着が不可欠です。

### <林業経営体におけるスマート林業の目的>

林業経営体の組織経営を含む林業活動における日常的な課題を「スマート林業ツール」を活用しつつ、業務の実施方法（仕組み）を見直して、合理的な考え方を学び、業務を合理化する

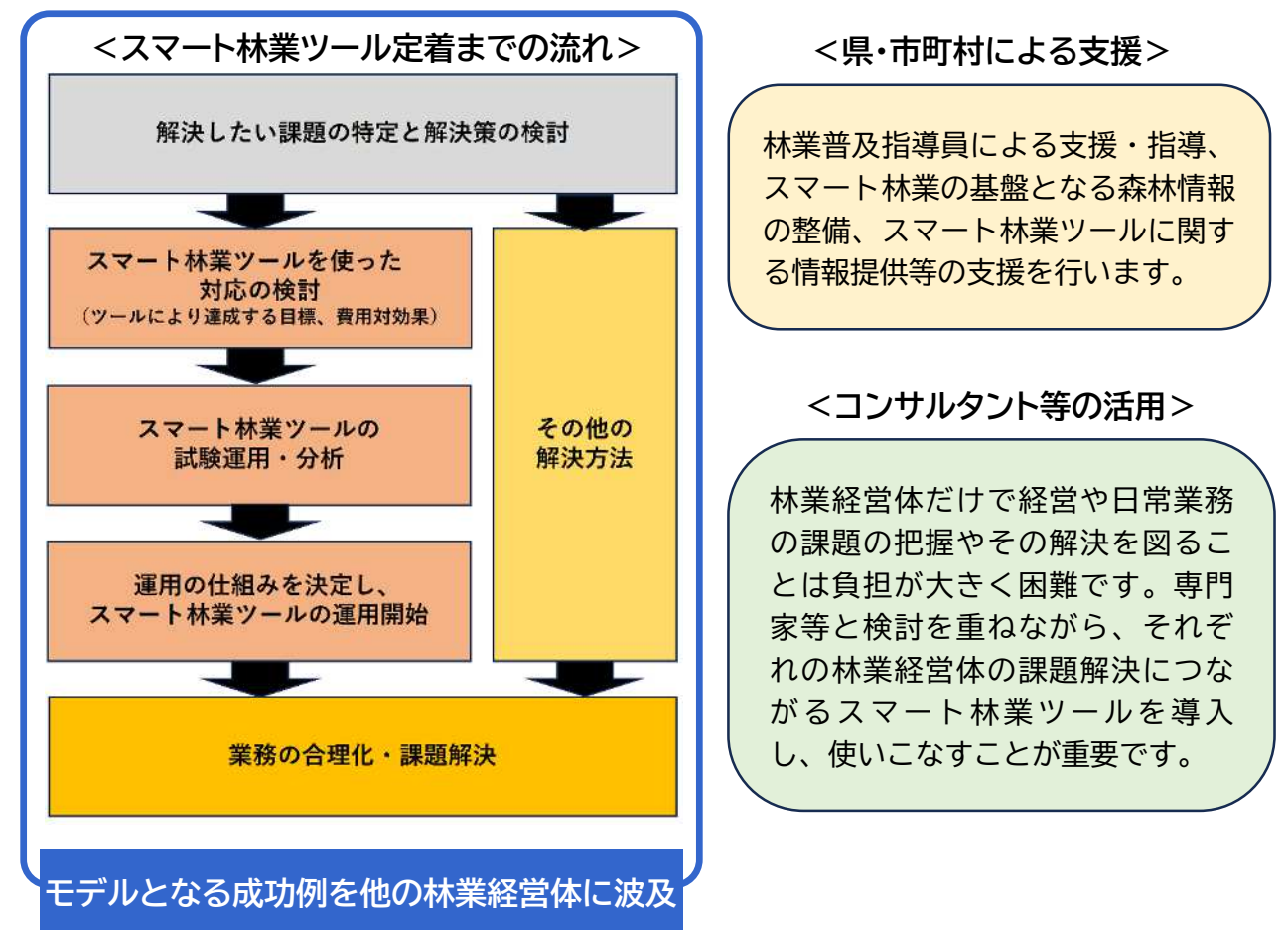
### スマート林業定着促進プラン (2024～)

課題を踏まえて、スマート林業の目的を明確にし、林業経営体へのスマート林業ツールの導入・定着に向けた集中的な取組をプランとしてまとめました。

## 林業経営体に対するスマート林業ツール普及の進め方

スマート林業ツールの普及を進める上では、林業経営体における「課題は何か」、「課題解決のためのツールとして何がふさわしいか、それはスマート林業ツールか」、「費用対効果はどうか」、「課題解決にあたっての目標とスケジュールをどう設定するか」等をしっかりと考え、組織全体に浸透させることが重要です。経営上の課題把握やスマート林業ツールの導入・定着には、林業経営体にしっかりと寄り添い、導くコンサルタント等の活用が有効です。

林業経営体ごとに抱えている課題は異なるので、すべての林業経営体に対して画一的に取り組んでもらうことでは高い効果を得られません。そこで、意欲的な林業経営体において、スマート林業ツールによる合理化を成功させて他の林業経営体に波及させることが望ましいと考えます。



### <県・市町村による支援>

林業普及指導員による支援・指導、スマート林業の基盤となる森林情報の整備、スマート林業ツールに関する情報提供等の支援を行います。

### <コンサルタント等の活用>

林業経営体だけで経営や日常業務の課題の把握やその解決を図ることは負担が大きく困難です。専門家等と検討を重ねながら、それぞれの林業経営体の課題解決につながるスマート林業ツールを導入し、使いこなすことが重要です。

### <業務分野ごとのスマート林業ツールの例>



<現場作業設計>  
路網設計支援ツール



<現場作業管理>  
日報システム



<測量等>  
GNSS 測量